



申1号2021年度冬期に発生した諸問題に関する申し入れ交渉報告

地本は9月12日申1号2021年度冬期に発生した諸問題に関する申し入れ団体交渉を行いました。昨冬期は山間部において長期間において運転を見合わせる期間が続くなど、お客さまや地域にご迷惑をかけ、また働くJR労働者の労働環境においても多くの課題を残しました。交渉において支社の認識と昨冬期の課題を明確にして、次期冬期に向けた万全な体制を構築することを強く求めました。

長期間運休の原因は想定を超えた降雪、積雪。情報を前広に提供することを確認

上越線などで発生した長期運休の原因は想定を超えた降雪が続いたことと、除雪した際に積み上げた雪を一斉除雪したことと会社は説明しました。また救済した場合に列車や道路状況により救済バスなどに長時間缶詰めとすることのないように判断したことも原因のひとつと説明しました。組合からは早めに運休を判断することに理解は示しつつも、現場一線社員にはプレスと同じタイミングで情報が入るためにお客さまからの問い合わせで運休と知ることが多々あったと指摘しました。対策会議内容などは確認できる状態であることは分かりましたが、業務中で自ら情報を収集できない状況の場合もあるので前広に情報を提供することを求めました。

現場が抱える課題と支社の認識に乖離があることを指摘

自動車便乗による乗務員送り込みを行路持ち替えによって経費削減や、空振りによる無駄を削減すべきと指摘しましたが、会社は関係運輸区間で支社間持ち替えも含めて実施していると説明しました。また車両運用変更により気動車等の燃料管理について所属箇所と運用指令で管理しておりギリギリで運行させることはないとの説明でしたが、実際昨冬期に急遽乗務員に残油量確認させるなど輸送障害時には把握し切れていないこともあると指摘しました。昨冬期から実施を取りやめた暖房予熱について会社は乗務員の休憩時間が確保できた視点で効果はあったと説明しました。お客さまから車内が暖まらないことについてご意見を受けていること、感染対策で換気を行うので車内が暖まりづらいので一律に暖房予熱を取りやめるのではなく、長時間留置する場合など条件によって見直す必要があることを指摘しました。

組合が把握している現場の声が支社に届いていない事実が明らかとなりました。どこに原因があるのか現場からも確認するが、支社も現場の声を吸い上げる努力を強く求めました。

本線を中心とした運転確保のための設備投資は実施することを確認

要求項目の中でも具体的に冬期対策として設備要求を行いました。会社は要求した箇所を改善するかは明らかにしませんでした。本線を中心とした運転確保のために必要な設備投資は行うと回答しました。会社として優先順位をつけて実施することを確認しました。

その他の要求項目・交渉詳細については交渉メモを参照ください。昨冬期問題について今回の申1号以外にも「羽越線矢引・新矢引トンネル速度しての取り扱い」「異常時におけるワンマン運転の取り扱い」等について団体交渉を行ってきました。東日本ユニオンはJR労働者の利益を第一に考え問題発生の都度行動し、働きやすい労働環境の実現をしていきます！